



環境保全米通信



春号

2024年3月発行



『もくじ』

1. 赤とんぼ食堂開催～約20人が環境保全米を食べ比べ～
2. 環境保全米生産拡大に向けて～JA仙台の新たな取り組み～
3. 若者のお米への関心～女子大学生の意識調査から～
4. 12月8日は「有機農業の日」～東北農政局で特製弁当を販売～
5. 環境保全米生き物調査速報
6. 環境保全米通信読者アンケートから



『みやぎの環境保全米』とは

宮城の自然豊かな環境を守るために、農薬・化学肥料を県の標準的使用量の半分に減らし、自然と人間の力を合わせて生産されたお米です。

みやぎの「環境保全米」の取り組みは1992年のリオデジャネイロ地球環境サミットをきっかけに始まっており、SDGs（持続可能な開発目標）の実践そのものです。

バックナンバーも
ご覧下さい。

(JA宮城中央会の
HPにリンク)



アンケート募集でお米プレゼント!
詳細は最終面

1 赤とんぼ食堂開催～約20人が環境保全米を食べ比べ～



赤とんぼ食堂で講演を行う熊谷貴幸氏

銘柄の異なる環境保全米を食べ比べる「赤とんぼ食堂」が昨年11月23日、仙台市宮城野区のJA仙台的直売所に隣接する「たなばたけベジキッチン」で開催されました。仙台市や大崎市など宮城県内の消費者ら約20人が参加し、生産者の話も聞いて、環境保全米への理解を深めました。

イベントはNPO法人環境保全米ネットワークの主催、みやぎの環境保全米県民会議、JA宮城中央会の共催で行われ、仙台白百合女子大学の学生の皆さんが

ご飯の準備などで協力しました。

食べ比べに用意された新米は「ひとめぼれ」「ササニシキ」「つや姫」で、炊き上がったご飯はどの銘柄か分からない状態で提供されました。参加者は香りや粘り気確かめながら銘柄当てに挑戦。用意されたおかずとともに真剣な表情で「これはササニシキに違いない」などと考えながら味わっていました。

環境保全米を栽培する若手生産者の一人で、仙台市泉区の山あいではササニシキを育てている熊谷貴幸さん(31)に講演頂きました。熊谷さんは、「農業を減らすため、除草など根気が必要な作業が多いが、おいしいと言われるのが何よりうれしい」と話していました。参加した消費者の方々からは「生産者の思いや苦勞が分かった」といった声が上がっていました。



2 環境保全米生産拡大に向けて～JA仙台の新たな取り組み～

仙台市では小・中学校に通う子どもたちの体づくりに役立てようとして2020年より期間限定で環境保全米の学校給食提供を開始しました。年間を通じて市内すべての子どもたちに環境保全米を届けるためには環境保全米の生産量の拡大が課題となっていることから、JA仙台では2024年から新たな取り組みを始めましたのでご紹介します。

JA仙台は、仙台市、多賀城市、塩竈市、松島町、利府町、七ヶ浜町と山形県境から太平洋まで東西に広く、田んぼの環境は様々です。そこで「標準的なタイプ」「除草剤に重点を置いたタイプ」「害虫被害が少ないタイプ」のように地域の環境に合わせた3パターンを用意し、生産者の中から1つ選んで環境保全米を生産できるように工夫しました。

また、1月30日には環境保全米の栽培拡大を図ろうと新たに「仙台環境保全米部会」が設立されました。仙台市内11地区の生産者、農業組織で構成され、「みどりの

食料システム戦略」への取り組み強化や、学校給食における環境保全米の年間供給量の拡大に向けて取り組みます。

JA仙台の藤澤和明代表理事組合長は「これからは担う子どもたちに環境保全米を安定供給するために、より多くの生産者に組み込んでいただき、生産量の拡大を目指します」と今後の意気込みを話してくださいました。

【みやぎ米飯学校給食支援方式】



宮城県米飯学校給食普及拡大推進委員会が2005年に制定。加入自治体は「各市町村にあるJAが生産した環境保全米ひとめぼれ一等米を給食に使う」というルールがあります。

例えば、仙台市の小・中学校へはJA仙台が生産したお米を提供します。環境保全米が不足する期間は慣行栽培米ひとめぼれを提供しています。また、パン用小麦も国産100%（宮城県産50%）を使用するなど地産地消の取り組みをすすめています。

3 若者のお米への関心～女子大学生の意識調査から～

若者の米離れが話題になっていますが、若者のお米に対する意識はどのような状況なのか、女子大学生のアンケートから一部ご紹介します。

調査に回答してくれたのは、仙台白百合女子大学の健康栄養学科の女子大学生 234 名です。知っているお米の銘柄については、85%の人が「コシヒカリ」、55%の人が「ひとめぼれ」、48%の人が「あきたこまち」と回答していました。「ササニシキ」や「だて正夢」はどちらも 30% 台でした。

興味深いのは食べているお米の銘柄についてです。宮城なので 4 人に 1 人が「ひとめぼれ」を食べており、「コシヒカリ」も 12% と多かったのですが、もっとも多かったのは食べているお米の銘柄が「分からない」という答えで 40% もいたのです。



銘柄	人数 (n=234)	割合
コシヒカリ	199	85.0%
ひとめぼれ	129	55.1%
あきたこまち	112	47.9%
だて正夢	81	34.6%
つや姫	76	32.5%
ササニシキ	74	31.6%
ゆめぴりか	28	12.0%
青天の霹靂	26	11.1%
はえぬき	24	10.3%
雪若丸	22	9.4%
無回答	8	3.4%



銘柄	人数 (n=234)	割合
分からない	94	40.2%
ひとめぼれ	59	25.2%
コシヒカリ	27	11.5%
つや姫	16	6.8%
あきたこまち	16	6.8%
ササニシキ	5	2.1%
はえぬき	5	2.1%
だて正夢	1	0.4%
その他	11	4.7%

また、みやぎの環境保全米については、「知らない」が 67%、「聞いたことはある」が 24% と食に関する学科の学生にもあまり知られていない様子がかがえました。

しかし、農業などを通常の半分以下に減らしたお米作りには「大変関心がある」、「関心がある」を合わせて 24%、「まあまあ関心がある」が 39% で関心がない人を上回っていました。

調査にあたった学生は、「現代の若者たちに SDGs の考え方が浸透してきているので、農業節減などによる環境の保全が大切である意識は持っているものの、みやぎの環境保全米のような実際の取り組みについては知らない人が多い。今後さらなる啓発が必要である。」と結論づけています。

4 12月8日は「有機農業の日」～東北農政局で特製弁当を販売～

12月8日は何の日でしょう？ 太平洋戦争の開戦日、ジョン・レノンの命日ではありません。「有機農業の日」です。有機農業推進法が2006年のこの日に成立、施行されたことにちなみ、10年後の2016年に制定されました。

東北農政局は昨年12月8日、仙台市青葉区の合同庁舎内で、有機農産物を使った特製弁当を職員向けに販売しました。記念日に合わせ、有機農業への理解を足元から深める試みで、前年に続いて2回目となりました。

販売したのは「油淋鶏」（白米か玄米、1000円）、「お魚の西京焼き」（1200円）、「洋風スタイル」（1300円）、「ヴィーガン」（1500円）、「プレミアム」（2500円）のお弁当計約100個。NPO法人環境保全米ネットワークが紹介した仙台市内の弁当店や飲食店が有機 JAS 認証を受けたお米のほか、農業を使用せず栽培された野菜などをふんだんに使って調理しました。

当日のお昼には、東北農政局と東北地方環境事務所の職員の皆さんが販売会場に続々と集まり、笑顔で予約したお弁当を受け取っていました。東北農政局の

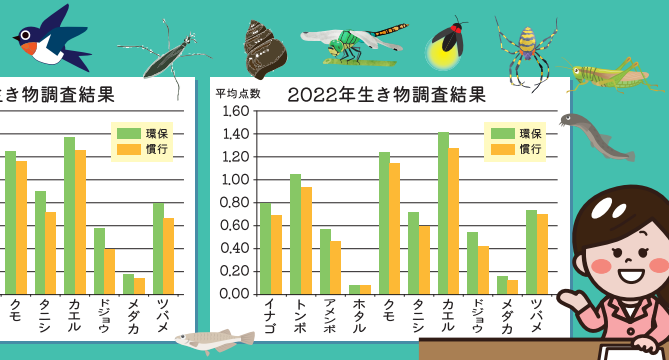


東北農政局でお弁当を受け取る職員

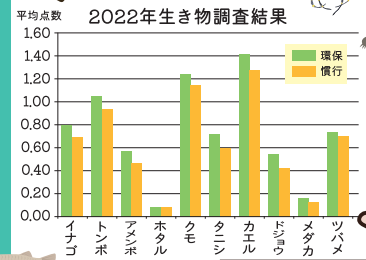
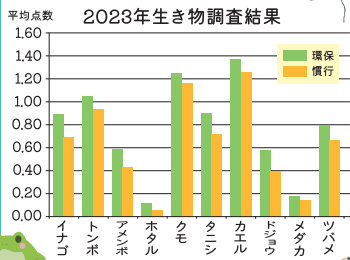
林田啓企画調整室長は「今後も有機農産物の浸透を図っていきたい」などと話していました。

調理、販売を担ったのは「ピオシーズ」「割烹小料理こ乃はた」「真野屋」「Vegeto.liko (ベジトリコ)」の4店舗です。

5.環境保全米生き物調査速報



環境保全米の生産に取り組むJAに協力いただき、慣行栽培米(=慣行)と環境保全米(=環保)それぞれの田んぼで生き物が「多くいる」「いる」「少しいる」の3段階で選んでもらい平均点を出した結果をお知らせします。2023年の調査においては2022年同様に環境保全米の方が慣行栽培よりそれぞれの生き物が多くいることが分かりました。今後専門家に詳しい分析をお願いし、結果をお伝えして参ります。



2023環境保全米通信冬号のアンケートにご意見をお寄せいただきましてありがとうございました。

6.環境保全米通信読者アンケートから



Q1 興味を持った記事は?その理由も。 Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

- Q1 「みやぎの環境保全米『新米試食会』を3年ぶりに開催」「新米の試食会」が3年ぶりに開催出来てよかったと感じました。試食会に一般の人も参加出来れば是非参加したいです。
- Q2 環境保全米がとても良い取り組みをしているのは分かりますが、知人に送るときに化粧箱に入れて送るのがいいのか?そのまま送る方がいいのか?考えます。配送方法を教えてもらえると助かります。
(仙台市・50代女性)

- Q1 「登米総合産業高等学校の出前授業がラジオ番組で放送」高校生が研究し、小学生と交流している姿が印象的でした。自分たちの取り組みの成果に対して小学生に興味を持ってもらい、かつ新しいアイデアを生み出したことは双方にとって深い学びになったと思いますし、大人も刺激を受けたことと思います。
- Q2 環境保全米の始まりがリオデジャネイロ地球環境サミットだったと書いてありました詳しく知りたいですし、環境保全米がSDGsの位置付けでどのような役割を果たしているか知りたいです。
(塩釜市・30代女性)

- Q1 「『環境保全米横断幕』でマイナビ仙台レディースを応援」自分もスポーツをやっていて、栄養面などで関係があったからです。
- Q2 環境保全米通信を見て理解することができました。
(利府町・10代男性)

- Q1 「登米総合産業高等学校の出前授業がラジオ番組で放送」環境保全米に関する出前授業を、これから担う同士で伝え合うという取り組みをされていることを知り、つながってほしいと感じました。普段の取り組みをどうやって伝えるか、クイズも取り入れて楽しい授業になったのではないかと思います。アイデアおむすびが商品化されるのも楽しみにしています。
- Q2 生産者紹介や環境保全米を使用している飲食店の紹介があると嬉しいです。
(仙台市・40代男性)

事務局よりお答えします!
30年前、農薬空中散布によって仙台市内の上水道から農薬成分が検出されたことをきっかけに、河北新報社が「考えよう農薬」キャンペーンを始めました。生態系・環境・健康・食の安全と多岐にわたる議論は、「農薬や化学肥料を減らして環境にやさしい農業を推進しよう」という『仙台宣言』に結実し、リオサミットで当時のストロング事務局長に手渡されました。詳細はバックナンバー2020年6月夏号をご覧ください!
※表紙右下のQRコードでバックナンバーをご覧ください。

読者の皆様からお寄せいただいた、疑問や取り上げて欲しいテーマについては、次号以降で取り上げていくよう努力してまいります。

ご感想をお寄せください

アンケートをお寄せいただいた方には抽選で、環境保全米2キログラムを10名様にプレゼント!



- Q1 興味を持った記事は?その理由も。
- Q2 環境保全米への疑問や取り上げてほしいテーマ等。

【アンケート記入例】

●アンケートの回答
Q1 _____
Q2 _____
●名前 保全米 太郎
●年齢 40才
●職業 会社員
●住所 〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3
●電話番号 022-261-7348

- 応募方法/次の項目をご記入の上、FAX・メール・郵送で応募先までお送りください。
●アンケートの回答 ●お名前 ●年齢 ●ご職業 ●ご住所 ●電話(FAX)番号
いただいた回答および個人情報は当法人にて厳重に管理しプレゼントの発送、または各種情報の提供、イベントの案内以外の目的では使用いたしません。
- 応募締切/2024年4月30日(火)消印有効 ※抽選結果は発送をもってかえさせていただきます。
- 応募先/NPO法人環境保全米ネットワーク事務局
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1-16-3 JAビル別館5F
TEL:022-261-7348 FAX:022-261-7488
E-mail:okome@epfnetwork.org URL:http://www.epfnetwork.org/okome/